

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1690800071		
法人名	トータルメディカル津沢株式会社		
事業所名	グループホームひだまり絆		
所在地	富山県砺波市宮森460-1		
自己評価作成日	令和5年4月21日	評価結果市町村受理日	令和5年7月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/16/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&3igvosvoCd=1690800071-00&Serv
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人富山県社会福祉協議会		
所在地	富山県富山市安住町5番21号		
訪問調査日	令和5年5月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所し10年目を迎えています。コロナ禍の中、利用者、職員共に感染者を出さず、職員一丸となって日々のケアにあたっています。利用者の外出が難しい中、四季を感じて頂ける料理の提供や行事を行い、また屋内で運動のレクリエーションを行うなどして、心身ともに健康に過ごして頂けるよう努めています。冬季には近隣の方と共に除雪作業を行うなど、地域に根差した施設を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・毎日の食事に関して、希望の献立を聞く、地域の店舗で食材を調達する、自家菜園の食材を利用する、個々の力に応じた準備や後片付けをするなどの取り組みを、開所以来続けている。
- ・職員が、スマートフォンやタブレットで個々に応じたオンライン研修を受講しており、スキルアップを図っている。
- ・看護師の在籍と医療機関との連携により、看取りにも取り組んでいる。また、勤務年数の長い職員も多く、利用者の健康管理、穏やかに過ごせる環境づくりがなされている。
- ・毎月、個別の「お便り」で写真やコメントで家族への情報提供を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月に一回のミーティングで、それぞれのユニットで自分たちの目指す介護は何かを話し合い、日々その思いを実践に繋げている。	法人の理念および基本方針は玄関や事務室内に掲示し、職員に共有している。事業所独自に「いつも素敵に あなたらしい人生を」の理念を掲げ、利用者の個別性を大切にした支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍であり地域との交流はできなかった。回覧板にて地域の状況を知るようにしていた。	コロナ禍により、地域との交流や行事への参加はできなかったが、地区自治会長や事業所を支援してくれる地域の人との結びつきを大切にしている。また、回覧板で利用者に関係することを伝えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍のため、地域との交流はできなかった。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回運営推進会議を開催することになっているがコロナ禍のため、中止になっている。令和5年3月より、再開した。議事録は、後日参加者に配り、地域包括支援センターにはFAXにてお知らせしている。	運営推進会議の重要性は承知しているが、コロナ禍により開催できていなかった。一部の構成員に相談・助言を得ることがあった。令和5年3月に自治会長・民生委員・地域包括支援センター担当の出席により開催した。	運営推進会議は事業所の実情や問題点を提起するのみではなく、外部からの様々な情報を得たり、問題解決を図ったりする重要な会議であることから、会議の在り方について、全職員が関心を寄せ、家族の参加、内容の伝達に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	連絡は密に取れていないが、砺波市からのメールや広告等で、状況を把握している。	感染症情報などについて、市からの連絡が多くあった。日常の感染対策支援を受けたおかげもあり、利用者・職員ともに事業所内の感染症の発生を防ぐことができた。地域包括支援センターからの情報も受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会において状況の確認。コロナ禍のため、各事業所にてスピーチロック禁止等、日々取り組み実践している。	身体拘束の研修は法人で年1回実施しており、各事業所から1～2名が参加し、研修内容は全職員に伝えている。事業所内で身体拘束防止委員会を年3回以上開催している。スピーチロックについても重点的に取り組んでいる。玄関は、外からは自由に入れるが、内側からは利用者の安全確保のために状況に応じて施錠することもある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束防止委員会を設置し、その活動の中で、虐待の事例を参考にし、事業所内の状況について確認している。内容は、各職員にもれなく伝わるようにしている。入居者の方を人生の先輩として、尊敬し言葉遣いなど気をつけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は後見人制度を利用されている入居者はおらず、詳しく学ぶ機会も、持っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は契約書や重要事項説明書に基づいて契約の内容を、できるだけ分かり易く説明し、署名捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。利用者様や家族の方が意見や要望を言える関係づくりに努めている。	意見箱への投書はないが、家族との電話や面会、介護計画説明の機会に口頭で話し合えるように働きかけている。運営に関しての意見はあまり多くはないのが現状である。家族からは、職員の名前がわかるようにしてほしいという意見もあり、方法を検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回のミーティングで職員が発言できる機会を設けている。各職員の発言内容についてディスカッションし、運営に反映させている。	日常の介護の内容・方法について、職員からの意見が多く出されている。利用者の状況に合わせた介護用品の利用や、生活環境について意見が出されており、運営に反映されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正社員には年に2回の賞与の支給や年に一回の昇給、能力に応じ非正規社員の正社員への登用、職員の能力や貢献度に応じて、資格取得の費用を会社が負担するなどして、職員のやる気の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	以前は月に一回、各職員が一カ所に集合して研修を行い、職員のスキルアップを図っていた。コロナ禍以降は集合型の研修に代わり、スマートフォンやタブレットを使用したオンライン研修によって、職員がスキルアップできるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により、外部の研修に参加できなかった事もあり、同業者との交流の機会は持っていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人の性格や嗜好、現在の状態、要望などを伺い、信頼関係を築き安心して入居して頂ける様、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思い、要望、心配なことなどを伺い、信頼関係を築ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話を伺いながら今必要としている支援は何かを考え、他のサービスと繋げることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	野菜作りや、調理の下準備など、本人の出来る事や好きな事を見極めながら、手伝って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍でも、感染の拡大状況によっては玄関先にて短時間の面会をして頂くなどの機会を設けている。通院の際はできるだけ、ご家族に送迎して頂けるよう、願っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため、オンラインでの面会や手紙などで、関係が途切れないよう、支援に努めている。	感染症対策のため、関係継続のための取り組みに制約があり、家族からの手紙や電話を待つ利用者が多かった。面会は玄関でガラス越しに行ったほか、オンラインでの交流も数名利用していた。5類移行後の対応は、法人で検討している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや季節の行事を通して、利用者様同士が良好な関係が保てるよう、支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移転先には、当施設入所前後の生活歴を伝え、ご家族様からの相談にも随時対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話から思いや意向をくみ取っている。意思の疎通が困難な場合、家族様の希望など確認している。	職員は、日頃の会話や動作の中で確認した希望や意向をタブレットに記録し、ミーティングで情報共有し、介護計画に反映している。利用者の希望により、家族に相談の上、受診時に家に寄るなど、本人の意向に沿った支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、関係事業所から、情報を提供して頂き、生活歴の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃から利用者様のできる事を見極め、役割を持っていただくよう、努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向をもとに定期的にカンファレンスを行い、現状のニーズに見合った介護計画を作成している。	介護計画作成者を中心に、利用者一人ひとりの目標について、職員が毎日ケアプランチェック表で実施状況を確認している。利用者、家族の思いや意向、状態を月1回のミーティング等で話し合い、計画書に反映し、状況に変化がなければ、6か月毎に見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の状態の変化や気づきなどは毎日の申し送りやノートを活用し、ケアの統一を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様、家族様の希望にはできる限り対応できる様、努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍であった為、地域との交流やボランティア活動の来所はお断りしていた。今後は感染拡大状況を確認しながら、活用していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医を希望される方は家族様と職員が連携して受診対応ができる様、支援している。	入所前からのかかりつけ医を希望する利用者は、家族の協力で受診している。受診時は日頃の状態を看護師より情報提供している。協力医の月2回の訪問診療を受けている利用者もいる。医師との連携を図り、看護師と職員で利用者の健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師連絡ノートを活用し連携を密にしている。日々の関わりの中で得た情報や気づきを看護師に伝え、指示を仰いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されている間は相談員等、病院関係者と連携をとっており早期に退院できる様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	令和4年11月～令和5年1月に家族様、訪問医師、管理者、看護師らと、重度化や終末に向けて個別に話し合う場を設けた。	事業所で看取りを行っている。看護師の在籍と、医療の連携の充実により、職員は安心して支援ができています。重度化した時点で医師と家族、事業所で話し合い、説明し同意書で確認を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各利用者毎の急変時のマニュアルを作成し、担当医師や看護師との連絡が取れるようになっている。また、AEDを設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を消防署指導のもと行う事になっている。令和4年度は自主訓練のみ行った。	年2回(昨年度は7、3月)火災を想定した避難訓練を実施しているが、地域住民の参加はない。ハザードマップにて水害避難地区に指定されていることから、避難場所の確認、備蓄品の確保、マニュアルは作成されているが、事業所全体で把握はされていない。	事業所全体で災害時の避難場所への移動やマニュアル、備蓄品、防災対策について把握し、地域住民の協力が得られるよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各利用者様の生活歴や性格の把握に努め、個々にあった言葉かけや対応を行っています。	日常生活の支援時の声掛けなどについて、尊厳、スピーチロック等の研修を受講したり、ミーティングで話し合ったりしている。適切でない声掛けを見かけたときは職員同士で確認し合ったり、管理者が注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話の中で本人の意思を確認している。自分の思いを言いやすい雰囲気づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな生活スタイルは決まっているものの、本人のペースを尊重し個々の時間を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望する利用者様や家族からの利用者様への希望があれば、月に一回、理髪サービスを提供している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に応じたメニューを提供し、もやしの芽取りや野菜の皮むき等の軽作業を利用者様と行っている。	3食、法人の栄養士が作成した献立をもとに買い出し、調理を行っている。また材料を工夫し、利用者の希望や好きな食事、状態に合わせた食事形態で提供している。利用者はテーブル拭きや後片付け等、できることを手伝い「いつも美味しい」と喜んでいる。季節や行事に合わせ、おやつも手作りで提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の状態に合わせて食事形態を変えたり、個々の水分量も把握し、好みのものを出すなどの工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	残存能力を見極め、必要に応じて声掛け、見守り、一部介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンの把握に努め、声掛け誘導を行っている。また、ポータブルトイレ使用にて、排泄ができる方の支援も行っている。	タブレットに排泄状況を記録し、それを確認して声掛けを行っている。ベッド上でのおむつ交換が必要な利用者もいるが、できるだけトイレにて排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ薬に頼らず水分摂取や体操、ベランダやホーム周辺の散歩などを勧め、便秘の予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調を確認し、可能な限り本人の希望を優先し、入浴を楽しんで頂いている。	事業所には一般浴と機械浴があり、それぞれ利用者の身体機能に合わせ、月～土曜日の間で週2回程度入浴できるようにしている。入浴剤や地元のゆずを使い、楽しく入れるように工夫している。医師の指示により毎日、足浴している利用者もいる。体調や清潔が保持できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動が夜間の安眠に繋がるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は個人ファイルにて確認できるようになっている。誤薬等を防ぐ為、職員間で確認しながら、介助を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花や野菜の手入れ、食事の下準備など、個々が張り合いを持って毎日過ごせるよう、努めている。おやつ水分補給時は個々に希望を取って本人の希望する飲料を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍前は季節感を味わっていただけのように、月に一度は外食やドライブ等を企画していた。現在は医療受診時のみしか外出していない。	コロナ禍のため、人混みを避けて季節の花見のドライブ(桜、コスモス)、また、天気の良い時は近隣の散歩や近くの公園に行っている。また2ユニットを結ぶベランダで日光浴やプランターの野菜作りを行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様自身での金銭管理は難しく、施設側で金銭管理している。本人が希望すれば、いつでも使用できるようになっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍で面会を制限しているが、希望があれば、ご家族の協力を得て、オンラインにて話をして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のスペースには日常の写真や季節に合わせた掲示物を利用者様と作成している。毎日の清掃にて清潔を保持している。	共有空間には台所、テーブル3台、TV、ソファが置かれている。空気清浄機や芳香剤を設置して、感染予防や消臭に努めている。長窓からの遮光と自然の景色が眺められる。各ユニットの壁には個性を活かして作品や写真が貼られている。季節の花が飾られ、穏やかに過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様は日中、ほぼフロアにて集われている。また、個室の為、各自思い通りに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた家具や写真など、馴染みのある物を持ってきていただいている。	居室には、ベッドと備え付けの整理棚と洗面台があり、部屋は広く長窓で明るい。自宅で使っていた家具やTV等を置き、整理整頓されている。壁には家族の写真や作品が貼られている部屋もある。1ユニットでは職員が描いた似顔絵と名札で部屋の確認ができるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのできる事、調理の下準備や洗濯物をたたむ作業など、手伝っていただいている。施設内に障害物になる物は置かない。		

目標達成計画

作成日: 令和 5年 7月 13日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4-(3)	2か月に1回運営推進会議を開催することになっているがコロナ禍の為、中止になっている。令和5年3月より、再開した。議事録は後日参加者に配り、地域包括センターにはFAXにてお知らせしている。	運営推進会議は事業所の実情や問題点を提起するのみではなく、外部からの様々な情報を得たり、問題解決を図ったりする重要な会議であることから、会議の在り方について、全職員が関心を寄せ、家族の参加、内容の伝達に期待したい。	運営推進会議のあった月は、職員には議事録の回覧を行っています。今後はご家族様に会議資料と議事録を送付し、事業所の現在の様子や取り組みについて理解を深めて頂くと共に、意見やご要望を頂けるように働き掛けます。	6ヶ月
2	35-(13)	年2回(昨年は7月、3月)火災を想定した避難訓練を実施しているが、地域住民の参加はない。ハザードマップにて水害避難地区に指定されていることから、避難場所の確認、備蓄品の確保、マニュアルは作成されているが、事業所全体で把握はされていない。	事業所全体で災害時の避難場所への移動やマニュアル、備蓄品、防災対策について把握し、地域住民の協力が得られるよう期待したい。	・BCPの作成に会社全体で取り組んでいます。・備蓄品のチェックを行い、今年度分が保存期限切れの為、購入しました。・災害発生時における避難の際、地域住民の協力が得られるよう、運営推進会議等を通して自治会長様に協力を求め、避難方法について協議します。それをもとに作成したマニュアルを全職員に周知します。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

(別紙4(3))

サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取 り 組 ん だ 内 容 (↓ 該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備	<input type="radio"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者へサービス評価について説明した
	<input type="radio"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	<input type="radio"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
	<input type="radio"/> ⑤その他()
2 自己評価の実施	<input type="radio"/> ①自己評価を職員全員が実施した
	<input type="radio"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	<input type="radio"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	<input type="radio"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	<input type="radio"/> ⑤その他()
3 外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	<input type="radio"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	<input type="radio"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	<input type="radio"/> ④その他()
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	<input type="radio"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ⑤その他()
5 サービス評価の活用	<input type="radio"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	<input type="radio"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	<input type="radio"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
	<input type="radio"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
	<input type="radio"/> ⑤その他()